



なみきり

茨城県笠間市福島五五二
電話〇二九九一五六一六二三七

6号(秋号) 1日
平成26年9月1日
発行 岩間波切不動寺

<http://www.iwamanamikiri.net>

御嶽山修行終わる

今年の御嶽山修行は7月26日〜27日の日程で行いました。お山の気候が安定しているのは、梅雨明け10日と言われますので、今年は例年より1か月早く出かけました。

修行に先駆けて7月9日荒神供の後、一睡もしないで聖翠先生・法忍先生・戸塚君が10日の御嶽山お山開きに参座しようとして笠間を出発しました。午前2時に田野原に到着、2時30分より登頂を開始。あいにくその日は台風の上陸直前の大嵐、それでも御酒・餅・果物等を背負い山頂に向かいました。聖翠先生は足が悪いので2人を見送り、車の中で無事に登頂できるようにと御嶽大神様に祈りを奉げていました。6時30分、全身ずぶ濡れの上に寒さで疲労困憊の2人が車に戻ってきました。

「8合目の金剛童子まで登ったが、何度か吹き飛ばされそうになるほど風雨が強く立って歩くことができない。寒さも加わり、体力の消耗もひどいので、金剛童子でお供えをして御嶽大神様を拜んで帰ってきた」とのことでした。

わい。大型バスが数十台に、家用車は数百台。10時過ぎに到着した当寺のバスを停める場所もない程、駐車場はいっぱいでした。毎年来ていても、こんな賑わいを見るのは初めてで、とても嬉しく心がワクワクします。そんな光景を横目で見ながら登拝準備をしていざ出発。



今年も登頂組と里宮参拝組と2派に分かれた修行です。里宮参拝組はいつもお山の気を実感しづらいので、今年こそ何とか「お山は素晴らしいエネルギーが充滿している」と感じられるよう、各自の体力に応じた所まで登ろうと計画しました。登頂組は3064mを目指し、男性陣は自分の荷物以外に、お餅・スイカ・桃・メロン・饅頭等お供え物を背負い、女性陣は全員登頂の意気込みで「六根清浄・六根清浄」と大きな掛け声をかけて登ります。

一方の里宮組もその後をゆっくり登り、遙拝所で3名が残り、大江権現を過ぎいよいよ道が険しくなってきました。「登らせたまえ、上がらせたまえ、六根清浄・六根清浄」と大きな掛け声をかけて、「赤っぱげ」の下で2名がリタイア、残り7名は元気に金剛童子を目指し、そして「8合目・金剛童子」登頂に成功。そこまで登ると森林

限界を超え2700mに達し下界が素晴らしく見えます。頂上でなくても8合目まで登れた満足感と喜びを噛みしめることができました。



▲御嶽山8合目の金剛童子付近にて。

また、赤っぱげの下でリタイアした2人が降り始めると、遙拝所に残った1人が登って来ました。訳を聞くと「遙拝所で皆さんが帰るまで般若心経をお唱えしようと言っていて、急に登りたくなつて。やっと大江権現まで来たから袴をはいて御幣を持った方が近づいてきて、中央不動明王のお迎えじゃあといって、御幣で頭や体を撫でられた。そしたら体が軽くなってスイスイここまで登れたのよ、あれなんだったのかね」と、不思議そうに首を傾げている。聖翠先生が「それは御座たてと言って、御嶽教の人たちがよくやっている神懸りでね、中座と言う修行した人に御嶽大神様を降臨させて、御神事をお伺いするのですよ」と教えてくれました。その人に応じた登りを体験した『里宮参拝組』は大満足の一日修行でした。



した方の「苦しみを共有したことで家族の絆がなおよ了一层深まります」というコメントに大拍手！今年の御嶽山修行は、和気あいあいとした和やかな雰囲気

不動様・弁財天様に「餅・スイカ・メロン・桃・饅頭・御神酒」をお供えし、般若心経七巻・諸真言百八巻をお唱えしてからお滝場へ。2・3人一緒に滝壺に入り、息もできないぐらいの水圧とそこにビュウビュウと渦巻く風、【ここには何者かがいらっしやる、とても怖い気】を受けながら気合を入れて踏ん張る、叩きつけるような激しい冷たい水、でも心や体が洗われる感じ。滝壺から出ると清々しい、生まれ変わったような自分に出会えたお滝でした。初めから終わりまで大声でお経を唱え、滝壺を清めて滝修行をさせてくださった法忍先生・戸塚君・小島君に感謝・感謝・感謝。

なぜ御嶽山の修行が必要なのですか？

奇しくも7月26日は鶴田勝慧さんの命日で、奥様の康子さんは8合目の金剛童子までスイスイと登りました。きつと奥様に付き添って勝慧行者さんも歩かれたのでしょうか？

法忍先生もザツクの中にそっとお位牌を入れてお連れしたようです。大好きな御嶽山に皆さんと一緒に登れたことが嬉しくて、草葉の陰で喜んでおられることでしょう。

ここまでお読みになって、皆さんは疑問や質問があまりではないかと思うのです。御嶽山というお山は、江戸時代に開山されたお山で、お山自体が神と崇められています。このお山には他の山にはない壮大なエネルギーが遍満しており、お山の氣に触れると不思議な力を戴けると言われています。『岩谷のお不動様の洞窟に命が無いと言われる人が、戸板に乗せられて運び込まれました。行者と家族が一生懸命祈ると、余命幾許も無かったその人は、数日後自分の足で歩いて下山した』という言い伝えの残る場所です。地元の人でも怖い所と寄りつきません。法忍先生はあのお滝・洞窟で平成19年7月から12月まで半年間住んで修行をしていました。朝2時半に起床すると真っ暗闇の中滝に打たれ、洞窟で6時間拝みを1日3回繰り返す、晴れた日は毎日お山に登りお力を戴いたのです。地元では『凄い坊さんが新滝で修行している』と噂が立っていたのです。法忍先生に出会った地元の方が『お坊さん、どこか

お体の具合が悪いんですか』と聞くと法忍先生は『僕は頭が悪いので、悪い頭を治してもらいために』と答えると、皆笑い出したそうです。その後の平成20年1月からは、18日から27日まで10日間毎月御嶽山新滝洞窟に籠り、平成22年2月20日弁財天様から【法忍よ、大学に行つて学べ』とのお言葉を頂戴したので。お言葉通り大学を受験すると合格し、一生懸命修行と勉学に頑張ったところ、教授から筑波大学の大学院に進めと言われて現在、大正大学と筑波大学院で学んでいます。勉強が大嫌いな法忍先生、山の神さんに悪い頭を治してもらったのですね？

御嶽山は火と水と土のエネルギーが遍満している場所、つまり【荒神さん】の御座所です。土・日・水がなければ作物は育たず、その恵みで生きている我々はそのどれか一つでも欠けてしまうと生きられないのです。【荒神さん】のエネルギーの集合体が御嶽山なのです。

聖翠先生が十数年前修行した頃は『神様のお体に靴で登るとは』と、裸足でお山に登る老行者をよく見かけたり、雪の新滝への道を裸足で登る老女性行者に出会ったりしました。このような理由で、皆さんもお山に遍満しているエネルギーを受け取ってもらいたかったのです。

今年の御嶽山修行での不思議

① 言葉の不思議

『六根清浄・六根清浄』と唱えると、苦しい息の中でも足が上がり前に進めた。言葉に力があることを実感。

② 水のお不思議

『腕に巻いていた水晶の数珠がきれいになって輝いている。2年続けての現象で驚く』
『法忍先生が三の池で汲んできた水を、家族中で風邪をひいて寝ている大学教授に飲ませたところ、一夜にして治ってしまつた。うさん臭そうな目で見ていた教授夫人が驚いたとも』

③ 土のお不思議

十数年前、聖翠先生が御嶽山へ訪れたときにお山が閑散としているのを嘆き、お山に信者が戻るようにと御嶽大神に願いをかけた。すると今年のような賑わいに』

なぜ信仰の山が廃れたのか定かではありませんが、聖翠先生は、反対側に位置する三笠山の斜面を削つてスキー場開発をしたことが、お山の神様の逆鱗に触れたのではないかと思ひ『三笠山さんをお慰め』したことが、今日の賑わいに一役買ったのではないかと考えています。

* 感激

【土をなめるように腰のまがつた80代の老婆行者が、9合目の中央不動まで登ってきた姿】

【ずり足で左右交互に足の出ない80代の老行者が、その足を引きずりながら遙拝所に向かう姿】を目のあたりにして、『こんな体になつてもお山に登拝し、大神様を拝みたいと思ふ心』を育む御嶽山、御嶽山信仰の偉大さ、人をひき付けてやまないお山の懐の深さに感激を受けました。

波切不動寺のお不動様・観音様・お



地藏様・お大師様・神々様方は、行者さん・信者さんが身につけてきた御嶽山の偉大なるエネルギーをいただいで、一層大きく輝いてくれることでしょう。

＊今回、都合で参加できなかつた方、どうしても行ってみたい方、聖翠先生・法忍先生が月参りをしていますので、その際にお連れします。ご連絡ください。

孟蘭盆会・施餓鬼供養が 終わりました。

毎年の供養ですが、その年その年で若干変化しています。今年は5日の朝、本尊様から『明かりが少ない』と言われたので、急ぎよ灯笼を作りました。その日のうちに構想を練り、淳司君が設計図を描き材料を購入。裕二君が組み立てて、敦子さんが絵を印刷し、法以さんがカッターで切り抜き、役割分担も自主的に決まり作業を開始。試作品が完成すると皆で歓声を上げました。たくさん作ろうと意欲的になって、手伝う人も増え10日の護摩の後には行者さん全員と信者さんも集まって、楽しくワイワイ、

130個の灯笼が完成しました。また10日頃から門前に寺へ入れない霊が無数いることを感じたので、門から寺まで灯笼を並べ、明かりを灯し



◀手作りの灯笼を灯してお迎えしました



『どなたも遠慮せずお入りください』とお導きをしました。お地藏様の前に施餓鬼段を設け『100種類の味の違う食物をお供え』すると共に、お地藏様の周りに無数の灯笼・生花をお供え、読経三昧の孟蘭盆会・施餓鬼供養をしました。お参りにおいで下さった信者さん、行者さんがひとつになつて般若心経と光明真言等のお経を繰り返して唱えていると、13日には南の空から金色の丸い大きな玉が2つ飛んできました。金色の丸い光は毎日飛んできました。お地藏様がお迎えにお出ましくくださったのでしよう。ここで供養された皆様のご先祖は一人残らず、空高く昇り成仏解脱したことでしょう。お参りの方が『先生素敵ですね、他のお寺では見られない供養ですね。私も死んだらこんな供養してもらいたいです』と言うので、『だから今から子や孫に彼方が供養している姿を見せておくのですよ。そしたら供養はするものなのだと子や

祈祷寺とは…… いつも考えているんですよ

孫は思うでしょう『こんな会話の中、子供たちは花火に夢中になり、きれいに洗われたお地藏様の御顔もニコニコ微笑んで、子らを見守っていてくれました。』
13日から16日までの孟蘭盆会・施餓鬼供養は幻想的などもし火に包まれて無事に終わりました。

どんなに素晴らしい修行をしたと言つても、『信者さんの求める願いを叶えられなければ修行した意味がない』と、厳しく自分を戒め修行に精進しているのですが、願いが叶う人と叶わない人がいるのです。どうしてなのかその原因を探るべく『叶った例』を考察してみました。皆さんのご参考になれば幸いです。

叶った例 その①

8年前のことです。使い古しの雑巾のような女性が聖翠先生の前に座りました。話を聞いて運が開くと見た聖翠先生は開運の手立てを考えました。何度も何度も繰り返し襲う苦難に打ちひしがれていたJ子さんの後方に、美しい女性が見えたのです。素直に助言を聞き入れてくれそうな女性だと確信しました。

聖翠先生にはJ子さんに美しい女性が守護霊として憑いていることがわかりました。J子さんは幾度かの生まれ変わりの中でお姫様の時があり、多くの女性たちがJ子さんにかしついでいました。その時の記憶が残っている『女性に関する仕事をしなさい。成功したければ先祖供養をして、お護摩の火に当たって、守護霊を強く大きくするのです』と、助言しました。J子さんはそれから一年、毎月のように二座式供養

をして、護摩の火を頂戴しました。するとJ子さんの周りには『私もJ子さんみたいになりたい』と美しい女性が集まり始め『来る人は拒まず、自分の会得した技を出し惜しまず教え共に栄えよう』の心で精進したところ、商売は大繁盛。『願わなことは叶わない』と言う先生の言葉に後押しされ、今年は売上日本一に輝きました。聖翠先生はJ子さんを『美魔女』と呼んで絶賛しています。商いも信仰も飽きないでするのが運を継続する道ですね。

叶った例 その②

つい2週間前の夜中の2時、聖翠先生の携帯電話がなりました。『お母ちゃんが高熱で意識がないの、先生助けて』と必死な叫び声。82歳のAさんとその娘さんはお不動様の熱心な信者さんです。聖翠先生は飛び起きて護摩堂のお不動様の所へ走り出しました。灯明を点けて祈りました。般若心経、不動真言を繰り返すと、お不動様の声が聞こえる。「いまが峠だ、あと1時間頑張れば生き延びられる」一心に読経を続けること1時間。何とか峠を越えることができました。

叶った例 その③

2か月ほど前に、聖翠先生のとこに先生の次男から『お母さん大変だ、大工のKさんが心筋梗塞を起こして救急車で搬送されている、助けてやって』と、必死の叫び声で電話がありました。『どこの病院に』『土浦協同病院だよ』聖翠先生は急いで法忍先生へ連絡し、2人で祈祷を始めました。聖翠先生は本堂で、法忍先生は新礼拝堂でノウマクサンマダーと精一杯の大声で一時間ぐらい拝んだ頃に電話がありました。『お母さん、大工さん息を吹き返したよ、ありがとう』大工さんには5歳の長男がいるのですもの、連れて行かれてたまりません。大工さんはお堂を作ってくれた人でもあり、何か頼むと快く仕事をしてくれる波切不動寺の隠れ



信者です。命が一番、聖翠先生はいつでもどこでもお不動様を拝んだらすぐに叶えてもらえるように毎日の権行が一番大事と言われます。

【例】女性行者の談

お金で買えないもの
当寺の女性行者が「昨日デパートでお寺に来ていた〇〇さんに会って『寺に行っているの？あの寺お金がかかって大変でしょう』って聞かれたの。『そうね』って言ったんだけど、お金のことは触れなかったの」と一部始終を伝えてきました。お金のことを言いだすとお寺に来られなくなるんだよね、と聖翠先生は苦笑い。後日、この女性行者は家族3人で御嶽山に登りました。



「苦しくてもう登れないと思うと、法忍先生の『六根清浄』の掛け声、つらい苦しい息の中で必死に自分も『六根清浄』と唱える。足が上がる、歩ける。なんと不思議なこと。息子は体重もあり頂上直下でダウン。一緒に登った寺の仲間と其処にいた登山者が『頑張れY君、頑張れY君』の掛け声。とうとう息子は頂上に登って男泣き、私も嬉しくて泣いてしまいました。いろいろ悩みを抱えていた息子ですが、自分から抱えていた苦しみを話してくれ、親子の絆が深まったような気がします」。頂上で味わった喜び、感動、西の空に沈む夕陽、満天の星空。どんなにお金を出しても手に入れないでしょう。お金は使うも

の、お金に使われない人生を考えてお不動様を信じて行きます。

【例】鈴木栄さん『四国歩き遍路』達成

当寺の行者・鈴木栄さんが、5月10日より6月25日まで47日間、1300キロメートル、八十八カ寺の巡礼を無事に終えました。本人の強い意志と家族の理解、強健な体力等の条件を整え、一番の信仰心を心の奥に持ち『南無大師遍照金剛』とお大師様にすがり、そしてお不動様のお力を頂戴し、四国遍路の旅に出かけられたのです。

もう体力の限界、足の痛みと腰の痛み、体中の痛みと耐え、ただただ無心に『御仏に合掌し歩かせてください。拜ませてください』と願いました。翌朝、目覚めると体の痛みが消え、また歩かせていただけのようです。歩いていると『お遍路さん、これ食べてきな』とお接待を受ける。

いろいろな体験、不思議、四国の人々の熱い信仰心に感動し、現世に戻ってきたのです。歩きでしか味わうことのできない感動。「お金でなんか買えない貴重な体験・信仰心です。一生懸命お寺建立を祈願してきましたよ」と。栄さんの熱い信仰心に感謝です。

寺建立の近況報告

前回、波切不動寺の建立計画をお知らせしました。約100坪の鉄骨総2階建てを計画し、見積もりは総工費2億7千万円の金額でした。いろいろ検討した結果、無理をすると今後の宗教活動に支障をきたすのではないかとの懸念から役員全員一致で取りやめの決定を下しました。そして当初の寺建立の目的を再確認し

1. 現在の寺では敷地が狭く車が渋滞し、ご近所に迷惑をかけている。
2. 宗教法人取得のため現在の敷地は「大久保家個人の所有」なので法人に寄進できない。
3. 信者数が多くなり現護摩堂では収容できない。

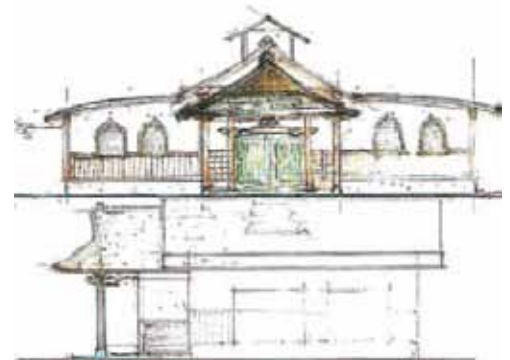
以上を踏まえ、再度検討した結果、新しい土地に建っている18坪の礼拝堂の左右に同坪数の建物を増築し、玄関を寺らしく立派なものにするという新案が浮かびました。

下の図をご覧ください。今回は木造平屋建てです。建設費も寺の積立金で賄えるので、新しい案で建てることを役員一致で決定し、現在設計士さんに図面作成他を依頼しています。今回は寺の身の丈に合った建築ですから資金面では無理がないかと思えます。やっとなりの方向性が見えてきました。ありがとうございます。

波切不動寺が御仏様の認めてくださる寺になるためには、左記の3つの条件を満たさなければなりません。

- 一、仏……不動明王座像・十一面観音菩薩像・遍照金剛座像・荒神立像があります。
- 二、法……経典「大般若経六〇〇巻」がないのです。
- 三、僧……仏様を信じて集まる私たちのことです。

仏・法・僧の3つが揃って初めて寺となるのです。波切不動寺には法の経典がありません。つきましては寺落慶までに経典を揃えたいと思います。土地を購入し一から寺を建立する機会に居合わせられるのも、稀にみる仏縁のある人で、きつと前世で功德を積まれた



▲現在建っている礼拝堂の左右を増築し、廊下を渡して接待所兼集会所を建設する新案の図。

波切不動寺秋からの予定

- 9月23日 みちびき地蔵秋彼岸先祖供養会
- 12月14日 八千枚護摩結願(午前9:00～)
- 12月29日 大掃除(午前9:00～)
- 1月1日 新年初護摩(午前0時～)
- 1月2日～1月7日 正月護摩1日2座(午前11時～、午後6時～)
- 2月3日 節分星祭り

のでしよう。大般若経典を創る機会に巡り合うのも仏縁だと思えます。
12月28日受付となっております。一冊一冊にお名前・願意を記入し、寺の宝として長く保存して、ことあるごとに大般若の功德で多くの人々をお救いしたいと、法忍先生は心願を立てておいでです。ひとりでは創れません。ここに、多くの信者様のご厚情におすがりする次第です。
1冊3万円です。お一人様何冊でも受け付けます。よろしくお願いいたします。

合掌